

こんにちは!

村立東海病院



抗菌薬が効かない!? 薬剤耐性の恐ろしさ

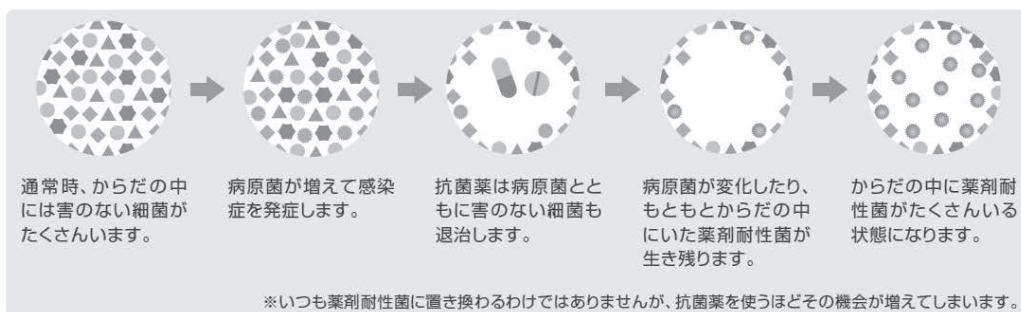
「薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)」とは、抗菌薬の使用に伴って病原菌が変化し、特定の種類の抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることです。現在、薬剤耐性によって世界中で年間約70万人が死亡しています。このまま対策を講じないでいると、2050年には薬剤耐性による死亡者数が1,000万人になり、がんによる死亡者数を上回ると予想されています。そのため現在、世界中で薬剤耐性対策の取り組みが始まっています。

抗菌薬はどんな時に使うの?

抗菌薬は細菌に有効な薬です。風邪やインフルエンザのウイルスには効きません。細菌とウイルスでは、大きさ、構造、増え方などの性質が異なります。

薬が効かないのは、薬剤耐性菌のためかもしれません!

私たちの体内にはたくさんの菌がいます。抗菌薬を飲むと、病原菌と共に体に害のない細菌も退治され、薬剤耐性菌が残ります。残った薬剤耐性菌が増えると、感染症に効かざる薬を飲んでも効きにくくなったり、効かなくなったりします。



出典: AMR臨床リファレンスセンター「効かない薬が増えている!! 薬剤耐性を知っていますか?」

薬剤耐性菌の主な影響

薬剤耐性菌が増え、抗菌薬が効かなくなると、次の2つの大きな問題が起こります。

【問題① 感染症の病気が治りにくくなる】…病気に効果が見込まれる薬の種類が少なくなり、治療に時間がかかってしまいます。

【問題② さまざまな医療が困難になる】…例えば、手術をするときに感染症予防の抗菌薬が使えなくなると、手術を行うことができなくなってしまいます。

薬剤耐性菌を増やさないために…

日頃からの予防が大切です

▽ワクチン接種…感染症にはワクチンで予防できるものが多くあります。

▽手洗い…汚れが残りやすいところ(指先や爪の間、指と指の間、手のしわなど)を意識して洗いましょう。

▽咳エチケット…マスクをしましょう。マスクがないときは、ハンカチや袖の内側で口や鼻を覆いましょう。

処方された薬は医師の指示通り飲み切りましょう

医師は患者さんの状態に応じて抗菌薬を処方しています。処方された抗菌薬は服用方法をしっかりと守り、最後まで飲み切りましょう。他人に処方された抗菌薬を飲んだり、残しておいて後で飲んだりしてはいけません。分からないことは医師や薬剤師に相談しましょう。

村立東海病院 薬剤師 大高 侑子

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉総務課地域医療担当(☎287-0848)